

令和元年度 陽西中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の精神を基盤として、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献できる生徒を育成する。

生徒の指標（生徒の信条）

- 敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- よく考え主体的に行動できる生徒
- 体力・気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 本市が目指す学校教育充実の方針を踏まえ、本校の良き伝統を継承し、さらに将来を展望しながら教育目標の具現化を図るため、昨年度の振り返りや学校・外部評価等を活かし、全校体制で学校経営にあたる。
- (2) 小中一貫教育の柱を、児童生徒指導の基本である「自己指導能力の育成」とし、「共に学びあい、互いのよさを認め合う人づくり」をテーマに、社会的自立を目指すキャリア教育を推進し、「自己の『よさ』を活かし粘り強く頑張る子ども」を育てる。
- (3) 「目指す教職員像」にせまる研修体制を整備し、信頼される教員集団を形成する。
 - ① 公教育に従事する者としての自覚と使命感にあふれる教職員
 - ② 生徒の個性を尊重し、共にのびてゆく教職員
 - ③ 厳しく、温かく、公平で、信頼される教職員
 - ④ 常に研究と修養に励み、健康で魅力あふれる教職員
 - ⑤ 目標達成への意欲と創造性に富む教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のよき伝統を継承し、さらに将来を展望しながら教育目標の具現化を図るため、昨年度の振り返りや学校・外部評価等を活かし、全校体制で学校経営にあたる。

- (1) 教育課程の円滑な実施を図り、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努める。
- (2) ○学習・生活の両面において、基礎的・基本的な内容の指導の徹底を図り、生徒一人一人の能力・特性の伸長に努める。
- (3) 教師と生徒との人間関係を大切にし、生徒一人一人の理解を深め、個に応じた適切な学習指導や特別支援教育の充実に努める。
- (4) ○文教的地域の特性を活かす体験的学習を工夫し、特色ある学校づくりを目指す。教育活動の相互の関連を図り、見通しを持った具体計画のもと、「社会性を育むキャリア教育」の実践を進め、問題を解決する活動を通して、自分の特性の理解と確かな自信が深まるようにする。
- (5) 保護者や地域、関係機関・団体等との連携を密にし、相互の信頼関係に立って本校の教育にあたるとともに、開かれた学校づくりに努める。
- (6) 教職員の意識の改革や教育活動の厳選・効率化など働き方改革を通して、教師が生徒と向き合う時間を確保するとともに、教材研究等が着実にできるように努める。
- (7) ○実効性のある小中一貫教育を推進する。

〔陽西地域学校園教育ビジョン〕

自己の「よさ」を活かし、粘り強く頑張る子どもの育成
～ 社会的自立を目指すキャリア教育を通して ～

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、学習指導要領、栃木県教育振興基本計画 2020(教育ビジョンとちぎ)、第2次宇都宮市学校教育スタンダードや第2次学校教育推進計画(うつのみや いきいき学校プラン)に基づき、地域の実態や生徒の発達段階、特性を考慮した特色ある教育活動を展開し、公教育の自覚のもとに、全教職員の理解と協力によって、本校の教育目標の実現を期す教育課程とする。
- (2) 自己実現のための意欲の向上を図るキャリア教育の推進を教育課程に位置づけ、総合的な学習の時間、特別活動、道徳科での指導を工夫し、地区内小学校とのつながりがもてる社会性育成のプログラムとする。
- (3) 教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図り、生徒のより良い適応を目指し、学級活動や特別活動の効果を学習意欲向上に生かせるように努める。
- (4) 教科主任会、学年会、校内研修において、一人ひとりの生徒に確かな学力をつけられるよう、指導計画と評価計画に基づいた学習指導法の工夫を検討するとともに、補充学習、夏季休業中の学習支援、家庭学習の定着に努める。

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○社会性を育むキャリア教育の推進
 【学 習 指 導】○「対話」を通して思考を深め、主体的に学ぶ生徒の育成
 【生 徒 指 導】○きまりを守り、思いやりの心を持って、行動する生徒の育成
 【健康(体力・保健・食・安全)】○健康を大切にし、元気に生活できる態度の育成
 【働 き 方 改 革】 事務改善や教育活動の厳選・効率化による生徒と向き合う時間の確保

6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 「対話」を意識した授業づくりに努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し、実践する。 ② 定期テストの結果分析をして、教科ごとにつまずきのあった内容の補充プリントを作成し学習支援を行う。 ③ 自主学習ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・「対話」を重視した授業づくりに努め、工夫のある授業の展開を心がけた。また、家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行ったが、家庭学習の定着は十分とは言えない。生徒の肯定的回答は85.5%と高かったが、教職員は73.9%と目標達成には至らなかった。 【次年度の方針】 ・「対話」を意識した授業づくりに努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し実践する。 ・小中で共通の「家庭学習の手引き」を十分に活用し、年度の途中に1・2度、取組の見直しを行うことで、更なる家庭学習の定着を図る。

す 生 徒 の 姿	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」生徒の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業を通して、思いやりの心について考えさせる。 ② 道徳の授業の前後に体験活動を位置付けたり、様々な体験を想起させたりすることで、道徳実践につながるようにする。 ③ 生徒の良さを褒めて伸ばす教育をすることにより、自己肯定感を育む。	B 【達成状況】 ・道徳の授業を通して、思いやりの心について考えさせることを繰り返し行う中で、生徒の優しい心が育まれた。生徒の肯定的回答は 82.3%と高く、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・道徳の年計の見直しを図り、道徳の授業と学校行事を関連させることにより、さらに道徳の実践につなげていく。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】「生徒は、きまりやマナーを守って生活をしている。」教職員の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに、服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。さらに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を教科指導はもちろん、生徒主体で行うようにさせるなど、内容を工夫して実施する。	B 【達成状況】 ・多くの生徒はきまりやマナーを守って生活できているが、個別に見ると、適切な判断ができない生徒の割合も多く、学校全体が落ち着かない状況になるなど課題が残った。 【次年度の方針】 ・教職員の共通理解・共通指導の徹底を図る。更に、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を生徒主体で行うようにさせるなど内容を工夫して実施し、規範意識をしっかりと身に付けさせる。 ・道徳科の指導を通して法の遵守や公共のマナーについて意識付けさせる。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」保護者の肯定的回答 80%以上	① 時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等による、生徒主体のあいさつ運動を推進する。	B 【達成状況】 ・地域学校園小中合同あいさつ運動や生徒会での取組を行う等、あいさつの活性化を図った結果、保護者の肯定回答が 87.7%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・今年度の活動をベースに、各学級でのあいさつ運動を更に活性化させるとともに、部活動ごとの参加を組み入れるなどさらに充実を図る。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」生徒の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり、学校行事のスローガンを設定したりすることにより、目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② 自分の良さや個性を理解し、将来の夢をもたせ、夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。	B 【達成状況】 ・学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等の目標やスローガンが設定され、協力して目標に向けて取り組むことができたので、生徒の肯定的回答 83.7%と目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度同様、学級活動、委員会活動、実行委員会等を通して、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。また、進路学習で学んだことを生かして、夢の実現に努力する態度を育成する。

A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 保護者の肯定的回答 80%以上	① 食育や体育的活動の充実を図り、自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに、体力増進に努めるなどして、健康な生活ができるようにする。 ② 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して、健康や安全への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・お弁当の日を中心にした食育の強化、体育の授業内での体力増強プログラムの実施、新規実施のがん教育講演会をはじめとした外部講師による出前講座の活用など、生涯を健康に過ごすことができる能力向上のための取組に対する評価として、保護者回答89.1%と目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・「うつのみや元気っこプロジェクト」に則り、健康、体力、食育、安全の4つの項目を柱として、生涯を通して健康、安全に留意して生活を送る能力の育成に努めていく。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】「生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 「Will ナビ講演会」を実施し、社会の第一線で活躍する人の生き方に学ぶとともに、進路の選択に役立てる。 ② 地域の中でのボランティア活動を推進し、社会の一員であることを自覚し、地域に貢献する態度を養う。	B 【達成状況】 ・Will ナビ講演会だけでなく、学級活動や職場体験学習などを通して将来のことを考えさせてきたが、教職員の肯定的回答60.9%であり、目標を19.1%下回っている。 【次年度の方針】 ・Will ナビ講演会の講師は、第一線で活躍する人だけでなく、身近な存在である地域の方など、幅広い人材から人選し、生き方を学ぶようにする。 ・生徒の積極的なボランティア活動を推進する。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ② ALTの各学級への給食訪問や学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	B 【達成状況】 ・英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れて実践することができた。教職員の肯定的回答が84.4%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・より積極的な、ALTの各学級への給食訪問や学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を一層充実させる。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】「私は、宇都宮の良さを知っている。」 生徒の肯定的回答 80%以上	① 地域でのボランティア活動に積極的に参加して、地域の人々との交流を図りながら、地域に関心を持ち、地域の良さを知ることができるようにする。 ② 「総合」の学習に地域を知る活動を取り入れる。 ③ 給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし、栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について知らせる。	B 【達成状況】 ・積極的に地域の人々と交流を図ることや、「総合」の時間を使って地域を知る活動を取り入れることなどが、十分に実践できなかったこともあり、生徒の肯定的回答は71.3%と目標達成には至らなかった。 【次年度の方針】 ・「総合」の学習に、地域を知る活動を取り入れ、地域への愛情や関心を深めることにより、宇都宮のよさの理解につなげる。

A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 生徒の肯定的回答 80%以上	① 各教科や「総合」の時間にパソコン室や図書館を積極的に利用するようにする。 ② 生徒会の図書委員会の活動を工夫して、図書館の利用促進を図る。 ③ N I E活動を推進し、新聞に親しむ態度を育成する。	B 【達成状況】 ・各教科や「総合」の時間に、パソコン室や図書館を十分には利用できなかった。生徒の肯定的回答は 53.7%と目標達成には至らなかった。 【次年度の方針】 ・授業のみならず、生徒会の委員会活動等でパソコン室や図書館を積極的に利用する。 ・N I E活動を引き続き推進していく。 ・図書館司書の積極的な授業への参画を勧める。 ・新たに導入したタブレット型パソコンを有効活用する。
A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 保護者の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業で、高齢者への感謝やいたわりの心を醸成する題材を扱い、思いやりの心を育てるようにする。 ② 体育祭や文化祭等の学校行事に敬老席を設けたり、地域行事への積極的な参加を促したりして、高齢者と触れあう機会がもてるようにする。	B 【達成状況】 ・道徳の授業で、高齢者への感謝やいたわりの心を醸成する題材を多く扱い、思いやりの心の育成を心がけた。保護者の肯定的回答が 84.9%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・道徳の授業で、高齢者にとどまらず、弱い立場の方に対する思いやりの心を育む題材を扱うようにする。
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】「生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 教職員の肯定的回答 60%以上	① N I Eの活動を通して、新聞を用いて、環境問題や防災等について学ぶようにする。 ② 環境問題に関心をもたせるために、節電・節水に努めさせるなど、身近なところからできることを見つけて実践させる。 ③ 生徒会ボランティア委員会によるリサイクル活動を推進する。	B 【達成状況】 ・今年度はN I Eの研究指定校として、環境問題に取り組んだり、ボランティア委員会を中心に活動したりしていたが、教職員の肯定的回答 33.3%と目標には至らなかった。 【次年度の方針】 ・各教科、総合の時間で環境問題について学習したことを、実践に結び付くように、委員会活動を中心にリサイクル活動を推進したり、節電・節水に努める態度を育成したりする。 ・持続可能な社会についての理解を深める時間を持つ。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、適切な支援ができるようにする。 ② 生徒指導部会や教育相談部会で、生徒の状況について情報の共有を図ったり、対応策を検討したりする。 ③ ユニバーサルデザインについての研修を深め、授業の中に取り入れることにより、合理的配慮への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・部会等で生徒の状況について共通理解を図り、必要に応じてケース会議を開き、他機関と連携するなどして支援を行った。また、授業公開（一人一授業）の実践において、ユニバーサルデザインの視点を授業に取り入れ、視覚支援やグループ活動上の配慮などを行った。教職員の肯定的回答が 97.8%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・情報の共有を図り、必要に応じて他機関等との連携を図りながら、段階的・組織的な対応を行っていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」生徒の肯定的回答 80%以上	① 「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、未然防止の取組の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ② 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。 ③ いじめ防止対策についての取組をより充実させる。さらに、教職員のいじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒主体のいじめ根絶集会や、全生徒によるいじめゼロ標語コンクールなど、未然防止の取組の充実を図った。また、日常的な巡視を強化したり、アンケートを年間6回実施したりしていじめの早期発見に努めた結果、生徒の肯定的回答 92.2%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・生徒主体のいじめ根絶集会の取組をより充実させ、いじめを許さない学校風土を築く。 ・教職員がより人権感覚を磨き、いじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるとともに、生徒との信頼関係をしっかりと構築する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】「教職員は、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」保護者の肯定的回答 80%以上	① スタンダードダイアリーを活用したり、教育相談を行ったりして、生徒一人一人に寄り添った指導をする。 ② 保護者との電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行うなどして、家庭との協力関係を構築する。 ③ 気になる生徒の早期発見、早期対応を心がけ、校内支援体制を活用して、新たな不登校の生徒を生まないよう支援する。	B 【達成状況】 ・ダイアリーを活用したり、教育相談を行ったりするなど、担任が中心となってなど、生徒の状況や心情を理解するようにし、不登校の未然防止と早期発見、早期対応に努めた。また、保護者とのこまめな連絡を心がけ、教育相談部会や支援委員会を通して、教師間での情報の共有を行った。保護者の肯定的回答は、88.1%であり、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・本年度の体制を継続し、さらに別室対応や個に応じた指導を心がけ、新たな不登校を増やさないよう努める。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」教職員の肯定的回答 80%以上	① 日本語指導が必要な生徒の個別指導計画を作成し、日本語指導ボランティアと連携を図って指導にあたる。 ② 家庭との連携を密にして、保護者のニーズを確認し、学校生活がスムーズになされるよう支援する。	B 【達成状況】 ・日本語指導が必要な生徒に対しては、日本語指導ボランティアと話し合いながら指導したり、外国籍の生徒には、家庭と丁寧な連絡を取ったりした。教職員の肯定的回答は、97.8%であり、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・今年度同様、生徒の実態に応じて適切な支援を行っていく。また、受験を予定している生徒がいるので、自己実現が図れるよう、支援していく。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】「私は今の学校が好きです」 生徒の肯定的回答 80%以上	① 学校行事等を通して、生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感をえられるような場を設定し、活動を支援する。 ② 生徒会活動を通して、生徒の自主的な活動を推進するとともに、委員会活動の活性化を図る。 ③ 学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある明るい学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ・全ての学校行事が生徒主体で動き、成果を収めることができた。また、生徒会活動についても、それぞれが適切な役割をもって積極的に活動することができた。教育相談については、SCを中心とするピアサポート活動に力を入れることにより、学級委員を中心とした「居がいのある学級づくり」に努めることができ、生徒の肯定的回答 80.4%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・学校行事、生徒会活動は引き続き生徒主体で積極的な運営が行えるように導く。 ・各学年共通理解のもと、学級経営の充実を図り、教育相談体制の強化も図っていく。
A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 生徒の肯定的回答 80%以上	① 個に応じたきめ細かな指導を行う。数学科及び英語科においては、習熟度別学習やT・Tなど、指導形態を工夫し、学力を向上させる。 ② 日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業の展開を実践する。英語科・数学科では、習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を取り入れ、個に応じた指導にあたる。	B 【達成状況】 ・英語科・数学科では習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を工夫したり、「ユニバーサルデザインの視点」を生かした授業づくりを行ったりするなど、個に応じたきめ細かな指導を心がけた結果、生徒の肯定的回答が86.4%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業を実践する。 ・英語科・数学科では、引き続き、習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を取り入れ、個に応じた指導にあたる。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① SC、MS、かがやきルーム指導員、学校図書館司書業務嘱託員等との連携を強化して、生徒の状況の把握と支援に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りを、指導に生かす。	B 【達成状況】 ・職員全員がチームとなり、SC、MS、かがやきルーム指導員、学校図書館司書業務嘱託員と連携するとともに、協力して業務を行った。教職員の肯定的回答 87.0%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・職員全員が適材適所で役割を果たすことで、チームとして協力しながら業務に取り組んでいく。 ・配慮を要する生徒については、多面的、多角的な理解に努め、SCなどの専門的な意見を生かし、指導にあたっていく。 ・職員の共通理解を図るとともに、日々の記録の活用を進めていく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 60%以上	① 教職員一人一人が、ミラ임을活用して出退勤時刻の記録を確実にを行うようにする。 ② 業務の効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ③ 定期的に「リフレッシュデー」を設定したり、部活動の休養日を設けたりして、教職員の負担が軽減できるよう配慮する。	B 【達成状況】 ・業務が多岐にわたる上に、生徒指導や教育相談、進路指導など臨機応変に対応しなければならない事柄が日常的に多くあった。定期的にリフレッシュデーを設定したが、実行できたとは言えない。そのため、教職員の肯定的回答は 45.7%と数値目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・業務の効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選について検討し、実践を行っていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 小中一貫教育について教職員がさらに理解を深め、生徒や職員の交流や連携による実践を行う。 ② 小中一貫各部会の研修を計画的に実施し、小中の連携を図っていく。また、各部会の重点目標を設定するだけでなく、望ましい学習習慣や生活習慣の育成など、中学校入学までに達成してほしい内容を目標として設定する。	C 【達成状況】 ・小中一貫教育については、計画的に各部会、教科部会、小中乗り入れ授業、あいさつ運動などを実施した。教職員の肯定的回答 87.0%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・地域学校園の児童生徒の課題を各部会でしっかり把握して、解決のための取組を小中連携して行っていく。 ・業務の効率化を図っていくために、会議や乗り入れ授業については、回数を減らすことも含め、内容の精選に努める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 教職員の肯定的回答 80%以上	① 望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭、外部機関や企業等との連携・協力を深めた授業や体験活動を行う。 ② 「よさこい踊り」やわかくさ特別支援学校との交流、地域のボランティア活動等を継続、充実させ、地域のよさを感じ取ったり地域の一員としての自覚を高めたりさせる。	B 【達成状況】 ・社会の第一線で活躍している方を講師として行う Will ナビ講演会や望ましい職業観を養うことを目的としてハローワークと連携して行う授業などを実施した。教職員の肯定的回答 93.5%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭、外部機関や企業等との連携・協力を深めた活動を継続していく。 ・地域ボランティア活動等へ積極的に参加することで、地域の一員としての自覚を高めさせる手立てを講じていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校HPや学校だよりを活用して積極的に情報発信を行い、学校の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ② 家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクールなどさまざまな機会をとらえて、家庭や地域との連携を図る。 ③ 陽西中学校地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組むようにする。	B 【達成状況】 ・学校HPで学校行事や生徒の活動の様子を発信することや学校だよりを定期的に発行したことで、保護者の肯定的回答 86.0%と数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・学校HPをさらに積極的に活用し、学校行事や生徒の活動の様子をリアルタイムで情報提供をできるように努める。 ・家庭訪問、三者懇談、保護者会等で家庭、地域との連携・協力を図っていく。 ・地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組んでいく。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」保護者の肯定的回答 80%以上	① 安全点検を、毎月確実に行うとともに、改善箇所の修繕を迅速に実施する。 ② 台風や地震、大雨などの自然災害発生時には、校舎内外の巡視を行い、危険回避に努めるとともに、危険箇所の発見と早期対応ができるようにする。 ③ 事務部と連携して、学校予算の適切な運用を図り、環境整備に努める。	【達成状況】 ・安全点検は、全教職員の協力のもと毎月確実に行った。また、計画的に避難訓練を実施するとともに、突発的な自然災害時も適切に対応することができた。保護者の肯定的回答 88.8%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・次年度は、より実践的な避難訓練を計画し生徒の意識向上を図る。また、台風や地震、大雨などの自然災害発生時に備え、危険箇所の発見と早期対応に努める。 ・今年度同様、事務部との連携を図り、環境整備を行っていく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】「生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」教職員の肯定的回答 80%以上	① 図書選定委員会を計画的に開催し、学習に必要な図書を整備する。 ② 教員のICT活用能力を高めるために、教職員の研修を行う。 ③ 授業等で活用しやすいように、ICT機器の適切な管理を行う。	【達成状況】 ・図書館の活用やパソコンを利用した授業を推進した結果、教職員の肯定割合が80%と目標を達成することができたが、生徒の肯定的回答は53.7%であった。 【次年度の方針】 ・教員と生徒の肯定的回答の乖離を少なくするよう努める。授業では教員が主導しての使用が多いが、生徒がICT機器を主体的に活用する場を多く設定していく必要がある。
B1 学校は、授業以外に、さまざまな学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。 【数値指標】生徒の肯定的回答 85%以上	① 基礎学力の定着、学力の向上を目指して、陽西タイム、放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポート、土曜日学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。 ② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。	【達成状況】 ・陽西タイムの実施や水曜放課後、夏休み、土曜日の学習サポート等、多くの取組を行った結果、生徒の肯定的回答が91.0%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指して、実施方法を検討しながら、水曜放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポートを実施する。地域協議会と連携した土曜学習サポートについては、実施方法等について再検討する。
B2 生徒は、体育祭、文化祭、地域ボランティア活動に積極的に参加し、協力して活動している。 【数値指標】教職員の肯定的回答 85%以上	① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。 ② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。	【達成状況】 ・行事ごとに実行委員会を実施し、生徒の意見を取り入れて実践した、地域ボランティア活動にも積極的に取り組むことができたので、教職員の肯定的回答 97.8%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事を、実行委員会主体で実施し、生徒の意見や創意工夫を取り入れたものとする。 ・ボランティア活動を積極的に行い、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。

本校の特色・課題等	B3 学校は、教室や廊下の掲示物を工夫したり花壇を整備したりして、環境美化に努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 生徒の心を育てるための、フラワープロジェクトを推進する。 ② 美化委員会及び、各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして、主体的に活動に参加できるようにする。 ③ 各学年フロアの掲示物を工夫しながら、計画的に作成する。	B 【達成状況】 ・校内の掲示物を定期的に更新したり、花壇の花を植え替えたりして、校内環境美化に積極的に取り組むことができたので、保護者の肯定的回答 92.2%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、フラワープロジェクトを推進し、生徒が主体的に携われるようにする。また、校内の環境整備にも取り組み、机椅子の修繕に努めたり、各学年フロアの掲示物を計画的に工夫しながら作成したりする。
	B4 生徒は、交通ルールを守って、安全に行動している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 教師による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通ルールの遵守や交通マナーの向上については、学年や学級で繰り返し指導する。 ② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。	B 【達成状況】 ・交通ルール遵守の意識が低い生徒もいた。守れない生徒もいた。教職員の指導の工夫も必要である。保護者の肯定的回答は 78.5%だったが、教職員は 43.5%であり、課題が多く残った。 【次年度の方針】 ・教職員の共通認識のもと、共通指導ができるようにする。生徒の意識を高めるための、交通安全教室等をさらに充実させる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度、質問項目が大きく変わったが、昨年度と同じで経年変化が見られる項目については、保護者・地域住民ともにポイントの上昇や高いレベルで維持している。これは、本校の取組を学校だよりやHP、保護者会等の機会を利用して積極的に発信した結果、広く理解が得られたものと考ええる。

・今年度も、生徒の自己評価と教職員の評価に大きな乖離があるのが特徴的である。特に、A3（生活のきまりの遵守）、A4（あいさつの励行）、B4（交通ルールの遵守）の項目で顕著である。生徒の行動に対する教職員の厳しい評価は、「もっとよくなってほしい」「もっとよくできるはずだ」という生徒への期待を反映しているのとらえることもできるが、現状を見ると課題が多いのも事実である。実態をよく見極め、時と場をとらえて、計画的かつ継続的に指導していく必要がある。また、生徒会活動など、生徒主体の活動も促しながらよりよい生活習慣の育成を図っていきたい。

・A2（思いやりの心）については、保護者・地域住民・生徒の肯定的回答がいずれも80パーセント以上と高い評価を得ているが、教職員の肯定的回答は56.5パーセントである。生徒の日常を観察すると、相手の気持ちや立場を考えない心ない言動が見られる場面もある。この状況を改善するためには、学校の全教育活動を通しての教員の指導が必要であることは言うまでもないが、生徒会活動等を通して、生徒相互の自治的な活動を推進していく必要がある。

・本校が重点的に取り組んでいるいじめや不登校の未然防止に関する項目では、教職員・生徒ともに高い評価が得られており、生徒一人一人を大切にしている教育の成果が表れている。

○・小中一貫教育に関する取組では、本校は陽西地域学校園として、小中一貫教育のグランドデザインを作成して、キャリア教育をはじめ学力向上や学校生活適応など、さまざまな分野で小中一貫の取組を推進しているので、昨年に続いて教職員と保護者、地域住民の評価が高かった。しかし、生徒の肯定的回答（73.8%）は三者と比較するとやや低かった。小中一貫のさまざまな取組やその目的を生徒がよく理解できるように指導する必要がある。

○・本校の学校園は2校の小学校と組織されているが、中学校区としては、6校の小学校からの生徒を受け入れているので、学校園以外の小学校との連携が課題であるが、実態に応じた実践を重ねることにより、小中一貫の取組の更なる充実を図っていきたい。

・学校独自で設定した4項目は、B4（交通ルールの遵守）を除き、ほとんどの項目で昨年に続いて高い評価が得られた。本校で取り組んでいる学力向上のためのさまざまな取組や、フラワープロジェクトなどの環境美化の取組が浸透し、保護者や地域住民の理解が得られていると考える。

・今年度から新たに設定された質問項目については、特にA9（宇都宮のよさの認識）、A12（持続可能な社会への関心）で質問の意味や意図が十分に認識されていなかった様子がうかがえる。今後、十分に周知して指導する必要がある。

7 学校関係者評価

- ・生徒は、落ち着いた雰囲気だまじめに学習に取り組んでいる。
- ・生徒は、体育祭や文化祭などの行事に協力し合いながら積極的に参加している。
- ・学校の花壇にはいつも花が咲き、校内の掲示物なども工夫した内容できれいに整えられており、環境がすばらしい。
- ・生徒は、地区体育祭や、公園の落ち葉掃き、河川清掃など、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる。地域住民との交流を深める場としても有意義である。今後も継続してほしい。
- ・今年度は4つの部（剣道・卓球・弓道・吹奏楽）で関東大会に出場するなど、部活動で大きな成果を上げているのはすばらしいが教員の部活動負担が心配である。部活動を通して学ぶことは多いので無くさないでほしい気持ちがある。外部人材の更なる活用を図り、教員の負担にならない在り方の検討が必要なのではないかと思う。
- ・学力向上のための各種の取組はすばらしい。持続可能なものにするために、講師の確保に協力したい。
- ・交通ルールの遵守について、生徒の意識の変化（意識が低下している）が気になる。危険箇所マップの作成などを通して、生徒に意識づけできないか。その場限りでなく、心に残るような体験（臨場感ある啓発ドラマなど）、深く考えるような活動をさせたい。
- ・地域との活動が広く周知されていて、開かれた学校づくりができていていると感じた。
- ・いじめ防止の取組では、生徒によるディスカッションなど、工夫した取り組みがなされており、成果を上げている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総じて、生徒は学習や生活面において安定した生活を送っている生徒が多く、学校生活にも活気が見られ良好な状態である。しかし、個々の項目を見ていくと課題も見られるので、今年度の実践の成果と課題を十分に検証して、来年度につなげていきたい。

- ・生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定することで達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに努める。
 - ・不登校（傾向を含む）や、不適応（傾向を含む）の生徒が減少するよう、引き続き支援体制の強化と関係諸機関との連携を図る。
 - ・学力向上のためのさまざまな取組が成果を上げているので、更に工夫改善して取組を強化する。
 - ・生徒指導を充実させ、規範意識の向上を図り、規律ある学校生活ができるようにする。
 - ・いじめの未然防止に向けたさまざまな取組を充実させる。特に、いじめ根絶集会などの生徒の主体的な活動を支援して、いじめのない（早期発見、早期対応ができる）学校づくりを進める。
- ・あいさつをより一層定着させるとともに、小学校と連携を深め、広げていく。また、教職員が自ら範を示し、時と場に応じたあいさつができるようにする。
- ・陽西地域学校園の小中一貫教育グランドデザインに基づく取組の充実を図る。
- ・ボランティア活動の充実を図り、地域に貢献できる生徒を育成する。
 - ・本校の特色ある取組を、さらに継続、拡充していく。
 - ・「開かれた学校」を目指し、保護者や地域住民が学校の教育活動を参観する機会を増やすとともに、学校HP等を利用して積極的に情報を発信して学校への理解と協力が得られるようにする。